

# 「学校と経営者の交流活動」の向上へ 人材育成への寄与を目指して 教育現場・地域・高等教育機関と連携を

学校と経営者の交流活動推進委員会  
委員長／日色保

(インタビューは9月16日に実施)

経済同友会は1999年から、活力ある21世紀の日本社会を支えていく人材の育成のための具体的な行動として「学校と経営者の交流活動」を始め、会員が教育現場で出張授業や講演を行い、企業や社会の変化や現状を直接伝える活動に取り組んできた。近年の取り組みについて日色保委員長が語った。

## 歴史ある「出張授業」 NPO法人と共催の「キャリア講座」

学校に経済同友会の経営者が直接赴く「出張授業」は、25年以上の長い歴史を持つ取り組みです。社会や仕事に興味を持ち始めた中学生、高校生にとって意義のある時間となります。例えば、実際にビジネスで活用している経営者が英語を学ぶ意義を伝えると、先生が重要性を説明するより生徒の心に響くそうです。

また、八丈島でも出張授業を行っており、私も現地に行きましたがとても好評でした。子どもに働くことのリアリティーを伝える上で非常に有益で、また、学校の外に出ることが少ない先生にとっても気付きの機会となったようです。

私は以前、社会保障委員会で子どもの貧困問題に取り組みました。この課題に経営者として、経済団体としてどう向き合うべきかを考えたとき、教育現場に赴き、職業や仕事のやりがいなどを直接伝える機会をつくることの意義を強く実感しました。そういう問題意識の下、貧困家庭の子どもを支援す

るNPOキッズドアと連携し、「経営者によるキャリア講座」を共催し、高校生への支援を実施しました。

本委員会において、この活動を継承し、今年度も共催しています。キャリア講座を通じて、高校生が普段接する機会の少ない大人、特に経営者と交流する場をつくることで、将来の夢や多様な仕事やキャリアの存在に気付くことができると考えています。

例えば「スポーツにかかわる仕事」でも、子どもの視点では選手になる以外の選択肢はイメージしづらいですが、実はチームをサポートする仕事、マーケティング、経営分析やマネジメントの仕事など、多岐にわたる職種がある。そうした人や仕事を、キャリア講座で紹介してきました。

## 先進的な教育現場に赴く 「ちきゅうみらいプロジェクト」

また、昨年度は福岡県立八女高等学校の「ちきゅうみらいプロジェクト」を支援しました。このプロジェクトは、「総合的な探究の時間」を用いて1年間を通して行う探究学習であり、7人の経営者がサポートに参画してくれました。

日色保 委員長  
ウォルト・ディズニー・ジャパン  
取締役社長

1965年愛知県生まれ。88年静岡大学人文学部卒業。ジョンソン・エンド・ジョンソン入社。2012年日本法人社長。18年日本マクドナルド入社。19年日本マクドナルド社長。25年ウォルト・ディズニー・ジャパン入社・現職。2013年4月経済同友会入会。23年度より副代表幹事。21～22年度社会保障委員会委員長、23年度より学校と経営者の交流活動推進委員会委員長。

生徒に何かを教えるのではなく、生徒自身がテーマを設定し、課題を見つけ、探究するプロセスに伴走する。経済同友会にとっては初めてのタイプの活動でしたが、子どもの興味や先生の課題意識がよく分かり、私たちにとっても実りの多い経験となりました。

## 墨田区では全中学で 「開かれた学校」の活動が

「出張授業」のこれからを考えると、東京都墨田区の取り組みは非常に先進的で注目しています。一般的に学校教育と接点の少ない地元商店街やNPO法人、行政らが一体となり、「開かれた学校」を目指して活動しています。NPOのコーディネーターが教育委員会にデスクを置き、彼らの旗振りの下、例えば地元税理士会の税理士による税金の授業などが区内の全中学生に対して行われています。こうした授業が何百とあるのです。私たちも、墨田区の取り組みに参加させていただくことにしました。学校を閉鎖的な環境とせず、外部を取り込むユニークな取り組みです。他の自治体にもぜひ広げていくべき、素晴らしいモデルだと思います。



日本の教育は硬直的だとよく言われますが、経済界にもその責任の一端があります。これまで経済界はどんな人材が欲しいかという意思表示を十分にできていませんでした。もし今、社会が求める人材と学校を卒業してくる学生との間にギャップがあるならば、私たち自身がもっと積極的に学校現場と交流し、「社会はこう変わっている」「こういう人材が求められている」とコミュニケーションしていかななくてはなりません。

そうすれば学校側も、経済界のリソースをどのように教育に活かせるか気付きを得られるはずです。

### **「高等教育機関との連携PT」発足 高等専門学校では授業のコマも**

経済同友会では大学・大学院、あるいは高等専門学校（高専）などの高等教育機関との連携を模索したいと考え、実践型のアプローチを目指す組織体として「高等教育機関との連携PT」を設置しました。高等教育の現場で経済人ができること、求められていることを考えています。今回その一環として、「ジョブシャドウイング」のトライアル

に取り組んでいます。

これは、大学生が経営者に一日同行する、いわゆる「鞆持ち」のような体験をしてもらうものです。社内会議や外部活動に参加し、意見を述べてもらうことで、学生がキャリアビジョンを描く機会になると同時に、彼らが企業と学校の架け橋になるものと期待しています。

高専では、経済同友会による講義も始まっています。木更津高専では、私たちの講義を年間カリキュラムに組み込む試みが進んでいます。高専の学生は非常に能力が高い反面、専門分野以外のキャリアについて選択肢を知る機会が少なく、経営者との交流が大きな気付きになると期待しています。

さらに、2025年3月には大学生を対象にした「未来創造フォーラム」も開催しました。就職を控えて具体的かつ切実にキャリアを考える大学生と話すことは、中高生との交流とはまた異なる刺激があります。起業したい、プロフェッショナルになりたいといった、いろいろな夢を持つ学生の手助けができるのと同時に、経営者側もインスピレーションが得られる。双方向で熱意を持って

話せる非常に良い機会であり、今年度も開催に向けて準備を進めています。

### **子どもの成長に貢献しつつ 自らの視座を広げる経験になる**

学生や学校との交流は、経営者にとっても非常に有益なチャレンジです。普段の業務では得られない気付きや学びがあります。

同時に、子どもたちの成長に貢献できることは大きな喜びであり、やりがいをもたらしてくれるでしょう。社会を担う次世代の育成にどう貢献するかという、より広い視点を持つことができます。ぜひ会員の皆さまに、その経験を味わっていただきたいと思います。

また、現時点では参加した方の個人的な気付きにとどまっている面もありますが、今後は実践の中で得られた知見、現場で発見した制約条件などを共有し、経済同友会として取りまとめ、さらに進化した活動へと発展させることが課題だと認識しています。

経済界も教育界も、ともすれば内向きになりがちです。自ら動き、教育現場のみならず、さまざまな世界とつながっていくべきです。

## 学校と経営者の交流活動紹介

### 歴史ある出張授業

今年度は学校数拡大・講師増員・授業内容の質的向上が目標

主に中学生・高校生を対象とした出張授業、学校現場におけるマネジメントやリーダーシップの課題についての教職員を対象とする講演会・研修会への経営者の派遣のほか、保護者を対象とした講演会などを実施してきた。

対面での出張授業に加え、近年はオンラインを活用した授業も実施。1999年度の開始から25年以上にわたり活動を継続し、2024年度までの実施件数は2,452件、延べ5,049人の講師を派遣してきた。25年度は「授業申込100件・授業実施300コマ・受講者1万人」を目標としている。



### キャリア講座

企業のリーダー・経営者と話そう

困窮世帯の子どもたちは、家庭や学校以外で大人とかわる機会が少なく、将来の選択肢や仕事の実際をイメージするのが難しいと言われている。そこで毎年一回、働くことの面白さや仕事のやりがいを知り、自分の将来を考えるきっかけづくりを目指す「キャリア講座」を認定NPO法人キッズドアと共催している。

高校生と経営者が一緒に夕食を取りながら、自身の夢や仕事への思いを語り、お互いに質問したり、グループでの意見交換や発表を行うプログラムである。経営者との対話を通じ、高校生たちに「働くって何だろう」「自分はどんな道を歩みたいか」を考える時間を提供している。



### 総合的な探求の時間(長期連携)

福岡県立八女高等学校「ちきゅうみらいプロジェクト」

「ちきゅうみらいプロジェクト」は、これからの時代を生き抜くための資質・能力の育成を目的として八女高校で行われている探究型学習。経済同友会に所属する複数の企業経営者や大学教授らが助言役として参加し、高校生たちの研究をサポートした。

2024年6月講演会から取り組みがスタートし、同年10月に中間発表会、25年2月に最終発表会を開催。デジタル・ヘルスケア・地域活性・イノベーション・金融・SDGsなどのトピックごとに複数班で実践的な授業が行われ、経営者のサポートは年間を通じて生徒の調査研究への助言など、約100コマの授業に対応して行われた。

最終発表会には日色委員長や環境省なども参加し、報道にも取り上げられるなど盛況な会となった。



### 高等教育機関との連携PT

ジョブシャドウイング

2024年度から、学校と経営者の交流活動推進委員会の下に「高等教育機関との連携PT」を設置。企業の人材戦略や求める人材像の変化を踏まえた高等教育のあり方を課題に活動している。

25年夏には大学2年生を対象に、キャリア選択に関する幅広い意識の醸成を図る観点から、本会会員である経営者の「抱持ち」を一日体験するジョブシャドウイング・プログラムをトライアルとして実施した。就職活動に先立つ段階から企業と接点を持ち、経営者が何を考え、どのように業務を遂行しているかを実際に見学してもらう取り組みだ。自らのキャリア選択を考える一助になるとともに、彼らに企業と高等教育機関の架け橋へなってもらうことを期待している。

